

Q.海・川・湖に行く頻度は？（3択）

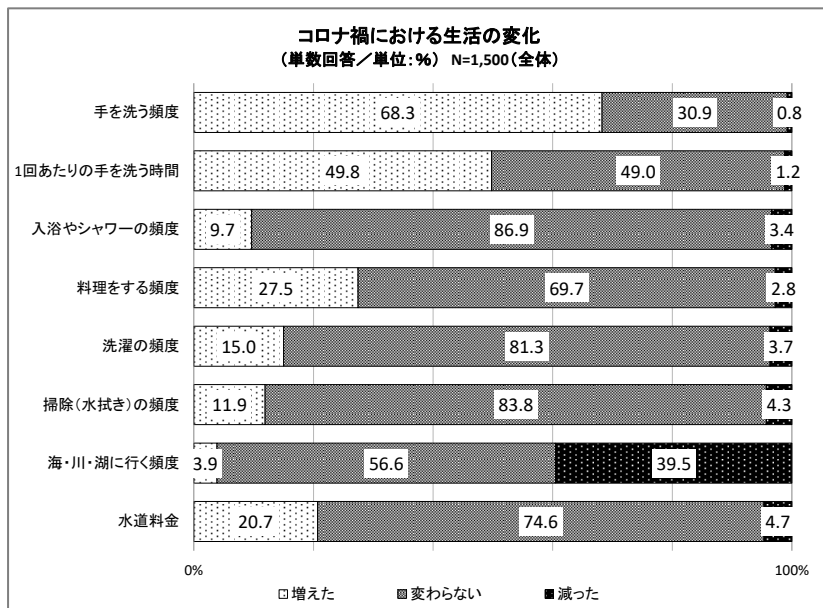
◇約4割が「減った」と回答。

海・川・湖といった水辺に行く頻度は、「変わらない」が過半数を占めるものの、約4割（39.5%）が「減った」と回答。コロナ禍でステイホームを強いられ、外出の機会が減少していることをうかがわせる結果となりました。

Q.水道料金は？（3択）

◇「増えた」人は2割程度。

水道料金については、「増えた」と回答した人が20.7%となりました。コロナ禍における生活で、自宅での手洗いや料理をする機会の増加に伴い、水を使う量は総じて増えているであろうと推測されますが、水道料金が変わったという人はそれほど多くはないようです。



節水の意識と行動

Q.日常生活で節水を意識しているか？（2択）

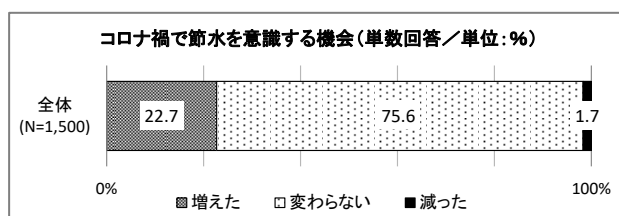
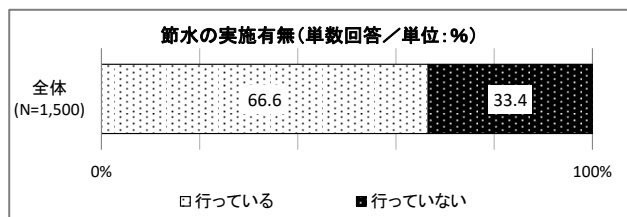
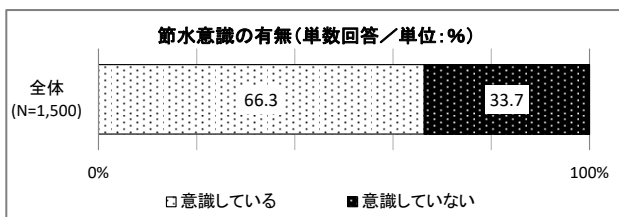
Q.日常生活で節水を実施しているか？（2択）

Q.コロナ禍で節水を意識する機会は増えたか？（3択）

◇節水意識と行動、ともに昨年を下回るもほぼ変化なし。コロナ禍で節水意識が上がった人は2割程度。

生活者における節水への意識と行動の明確化を目的に、2019年より新たな設問で行っている節水評価ですが、今年の結果は、節水を「意識している」が66.3%、節水を「行っている」が66.6%となりました。いずれも昨年（意識:69.5%、実施:68.5%）をやや下回ったものの、ほぼ変化はなく、これらの結果からは、コロナ禍の影響はほとんど見られませんでした。

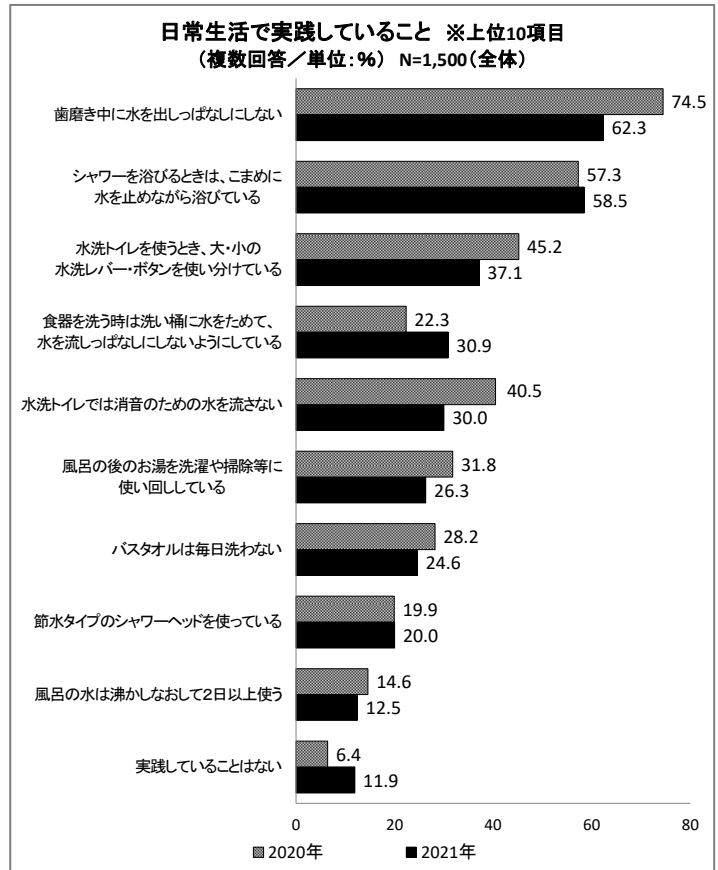
ちなみに、コロナ禍で節水を意識する機会が増えたかについて聞いたところ、7割超（75.6%）が「変わらない」と回答し、「増えた」人は2割程度（22.7%）でした。



Q.日常生活で実践していることは？（14択+その他+実践していることはない）

◇項目ごとの取り組み率に変化あり。

節水や再利用の方法に関する項目を選択肢にあげ、日常生活で実践していることについて聞いたところ、1位「歯磨き中に水を出しっぱなしにしない」（62.3%）、2位「シャワーを浴びるときにこまめに水を止める」（58.5%）、3位「水洗トイレの大小レバー・ボタンを使い分ける」（37.1%）となり、トップ3は順位、項目ともに昨年と同様でした。しかし、それぞれの数値に目を向けると、「歯磨き中に水を出しっぱなしにしない」は昨年（74.5%）から12.2ポイント、「水洗トイレの大小レバー・ボタンを使い分ける」は8.1ポイント（昨年45.2%）と大きく減少しています。加えて、4位「食器を洗うときは水を流しっぱなしにしないようにしている」（30.9%）は昨年（22.3%）から8.6ポイント増加し、5位「水洗トイレでは消音の水を流さない」（30.0%）は10.5ポイント減少（昨年40.5%）するなど、項目ごとの取り組み率に変化が見られました。



水道水に関する意識

Q.水道水を10点満点で評価すると？（0～10の整数を自由回答）

◇全体、居住地別ともに昨年とほぼ変わらず。

水道水の10点満点評価は、全体の平均が昨年比0.14ポイント減の6.82点となり、居住地別でも東京圏が0.16ポイント減の6.76点、中京圏が0.19ポイント減の6.88点、大阪圏が0.05ポイント減の6.82点と、いずれも昨年をわずかに下回ってはいるものの、ほぼ変わらないという結果でした。昨年、唯一7点台に回復した中京圏は、再び6点台となりました。

